

最下流のオトリ店、熊野水産の裏にある沈下橋から川の中をのぞき込むと、多くのアユが確認できた



2013年9月25日、滝尻隧道の上流、戸土・捨石の瀬で午後2時ごろからサオをだす



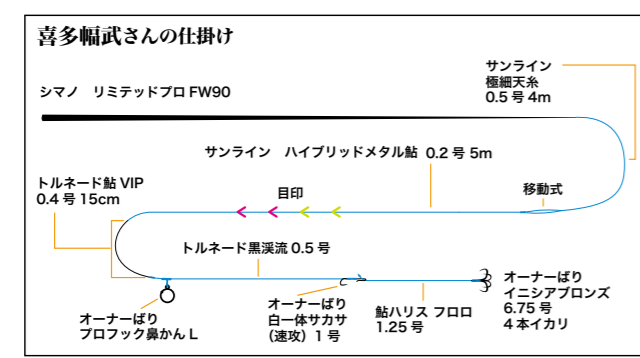
左岸に渡り右岸側の大きめの石周りにオトリを沈めると20cmクラスの元気な野アユが掛かった

増水からの回復力は県下一！流れ緩やかな安全河川



渇水時は泳がせ群れアユ攻略

果無山脈を源に南紀白浜町の富田で太平洋へ注ぐ富田川は総延長41kmの2級河川。和歌山県内の支流を除いたアユ釣り河川のなかで唯一ダムがない川として有名だ。全体的に石が小さく流れが緩やかで豊富な釣り場が多い。天然遡上が豊富な姿が多く見られたが、近年は遡上時期の渇水による瀬切れのため稚アユが遡れず、下流域に溜まってしまふことが多い。おかげで友釣り好調とはいえない状況が続いており人気は低迷。周辺の日高川、日置川、熊野川方面に釣行する人が多い。しかし釣り人が少ない分、何日間も誰も釣りをしていないというサオ抜けポイントが多くなり、穴場的な釣り場として注目を浴びている。



場としてみることもできる。実際に2013年シーズンは1日で30尾、40尾という釣果を上げた釣り人も多くおられたようだ。そんな富田川の最大の特徴は増水後の回復の早さ。台風や梅雨の大雨で川が赤いゴリとなっても2日もすれば薄いゴリの状態にまで戻り友釣りが可能になる。周辺河川で友釣りが不可能な場合でも、富田川だけは大丈夫ということがよくある。ただ、その反面、渇水状態になるのが早いのも事実だ。そんな理由もあり富田川は泳がせ釣りが主力の河川。平均してフラットな地形のため浅いトロ場やチャラ瀬が多く釣りやすいが、水量が少ないイコール川幅が狭いという点でもあるので、アユを驚かせないようにする工夫が必要だ。高水時は早いテンポでナワバリを持った黄色いアユの数釣りも可能だが、渇水時はどろどろも群れアユを攻略しなかり釣果を伸ばすことが難しい。常に好釣果に恵まれている人の多くは、群れアユが溜まるトロ場に座り込み、静かに泳がせ釣りをしている。

かつて友釣り競技会の全国大会も開かれたこともある数釣り河川だったが近年は遡上期の瀬切れで人出も少なめ。しかし裏を返せばその分、サオ抜けポイントが多いワケで、ねらう価値は大いにアリ！

解説◎喜多幅 武